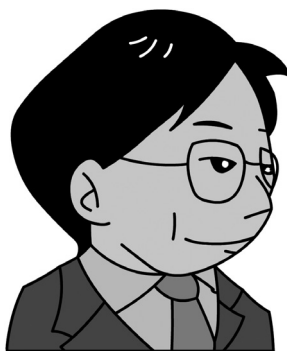


多彩な資格とスキルを持つ社員が強み 事業領域を次々と拡大して着実に成長

創立20周年に向けてISO9001を取得

大手通信会社のお客様センターとして誕生した(株)オービット(本社・大阪市北区、社長・萩原光子氏)は、光回線インターネットの接続・運用サポートなど第一種電気通信事業のアウトソーシングを軸に、顧客からの要請を受けて次々と事業領域を拡大。着実な成長を続ける同社の原動力を探った。

オービット



菅祥之専務



萩原光子社長

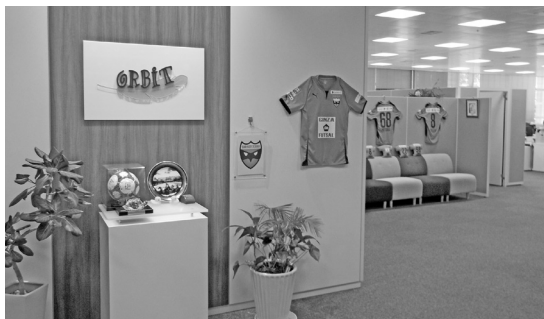
同社はお客様センターのオペレーション業務からスタートし、ネットワーク設備保守、初期設定訪問サポートへ業務を拡大、さらに建設業(電気通信工事業、スマートグリッド関連(HEMS実証事業)など)に進出。「会社の知名度は低く、規模も小さいですが、社員の頑張り、電気通信事業においてLAN工事からお客様対応、保守までトータルに対応できる数少ない企業へ成長できました」と萩原社長は自主的に考えて行動する社員に感謝し、会社として彼らをバックアップしているだけだと謙遜する。

実際に、社員一人ひとりが率先してあらゆる業務をこなし、高度なスキルを身に付け、難しい問題にも真

摯に取り組み姿勢が評価された結果、「こんな業務はできないか?」「新たな事業を始めるので一緒にできないか?」といった依頼が顧客から次々と寄せられるようになった。それも関西や日本を代表する優良企業とその関連会社ばかりで、しかも直取引である。「通常では考えられないことで、社員と取引先に恵まれました」と萩原社長は社員への感謝を惜しまない。

積極的な先行投資が功を奏す

同社は、将来必要となる人材を早い段階で積極的に採用してきた。そのため、多種多様な資格や技能を持つ社員が集まり、同業他社との差別化にもつながっている。人材採用も一種の先行投資だが、設立9年目の2007年にはプライバシーマークを取得し、10年には情報セキュリティマネジメントのISMSを取得(15年にISO27001:2013に更新)。PマークやISO等の第三者認証は、申請や更新に手間暇とコストをかけた課題をクリアしなければならず、取得する中小企業は限られている。だが、同社は最初のPマークこそコンサルタント会社の指導を受けたものの、その後は社員だけで課題をクリアし更新手続き等を行っている。そして今、3年後の創立20周年に向けて、ISO9001取得に取り組んでいる。認証取得は、企業競争力を強化し、企業価値も向上させるからだ。同社に入社してから認証に関する



エントランスと開放的なオフィス。飾られているのは、同社がサポートするFリーグ「シュライカー大阪」のユニフォーム。来春から同社のフットサルクラブも大阪府3部リーグに参入予定

る知識とノウハウを学んだという情報セキュリティの担当者は、審査機関の担当者から聞いた話だと断った上で、次のように説明する。通常はやらされている雰囲気が出るそうだが、同社は社員全員が一生懸命に取り組み、わからないことや疑問点を積極的に聞くので、自然と協力的になるという。また、これまでに作成したファイルノートを見て、認証のコンサルタント業務もできるのではないかと評価されたそうだ。

こうした社内の一体感と成長が評価され、メインバンクから将来的なIPOの提案を受けたと明かす萩原社長は社員一人ひとりが自慢できる会社にしたと、上場も視野に入れていく。